

大仙市に届けよう！ 我らの「白神ブランド」 秋田県種苗交換会の 出品物を募集します！

受付日時：令和4年10月25日(火) 9:00～15:00
受付場所：能代営農センター・ニツ井営農センター・藤里営農センター

出品物規格

- 第1部 水稲**
1類 水稲 稲：2把（1把各5株）
2類 水稲グループ：3品種で1組（1品種2把各5株）
- 第2部 畑作物及び工芸作物**
1類 豆 類：子実2リットル、株大豆10株（ビニール袋入れ）
2類 穀物（麦含む）：子実2リットル、株20株（根付き）
3類 いも 類：甘しょ・馬鈴しょ2キログラム又は出荷箱1箱、こんにゃくいも（3年いも、1球300グラム以上、5球）
4類 葉たばこ：30枚
5類 ホップ：穂花20グラム
- 第3部 果樹**
1類 果実 実：2キログラム（ただし子実（栗・銀杏等）は1キログラム）
2類 果実グループ：主要品種2品種で1組（1品種2キログラム以上）
3類 果実包装荷造：ダンボール1箱（5キログラム）
- 第4部 野菜**
1類 野菜：

トマト 出荷箱（4kg）	キュウリ 出荷箱（5kg）	イチゴ 出荷箱（4パック）	メロン 出荷箱（5～6個）
ズッキーニ 出荷箱（1kg）	サヤエンドウ 出荷箱（1段平並）	サヤインゲン 2パック（各150g）	
ホウレンソウ・チンゲンサイ・ツルムラサキ・菜類 2袋			
ミニトマト 2パック（各200g）、出荷箱（バラ1kg）	ピーマン 2袋（5個入）、出荷箱（バラ1kg）		
キャベツ 出荷箱（8個）	タマネギ 出荷箱（10kg）		
ニンジン 10本（葉切り）、出荷箱（1箱）	ヤマゴボウ 10本1把、出荷箱（1kg）	パセリ 2把、出荷箱（1箱）	
ハクサイ・カボチャ・ハクラン 2個		カブ・ツクネイモ・ハヤトウリ 5個	
ゴボウ 1把（10本）	サトイモ バラ2kg	セルリー 2株	セリ 2把（20本）
ニンニク 10個		オクラ・シシトウ 2パック（各150g）	

※上記以外の出品については出荷形態とする

- 2類 野菜種子及び苗類：種子は2デシリットル（ただし大粒の種子は1リットル、苗は2株）

- 第5部 花き**
1類 切花 類：切花10本、切葉10本（根をカットしたもの）
2類 枝物 類：枝物10本（根をカットしたもの）
3類 鉢物 類：鉢花2鉢、観葉植物2鉢（鉢に入った根付きの植物）
4類 種苗 類：球根15球、苗物5株（苗物はポリポット苗か連結ポット苗）

- 第6部 農林園芸加工品**
1類 農林園芸加工品：包装または出荷単位2個（ただし漬物のパックについては3個）
2類 農林工芸品：1個または1組

- 第7部 畜産品及び飼料**
1類 畜産品及び加工品：食肉加工品包装又は出荷単位2個、蜂蜜広口瓶2本、鶏卵2パック又は出荷箱1箱
2類 飼料：サイレージ・乾牧草2キログラム

- 第8部 林産品**
1類 きのこと 類：3パック（各100グラム）、乾しいたけ1袋（200グラム）
ただし、露地栽培ものは、販売又は出荷の形態とする。

皆様からの、たくさんのご出品をお待ちしております！

規格については、
営農指導員まで
お問い合わせ下さい。

稲作・畑作

営農情報

来年の稲づくりは今秋から

□あきた白神米の品質・食味向上は土づくりから□

土づくりは、必ず実施すべき基本技術であり、土づくりを実施しない圃場では高品質・良食味米の安定生産を行うことはできません。

登熟期間の根の活力低下による養水分吸収量の低下は、登熟に大きな影響を及ぼします。このため、根を健全に保ち根域を深く拡大させ、生育途中の急激な葉色低下や生育の停滞を防ぎ、登熟後半まで根の養水分吸収能力や光合成能力を高く持続させる土づくりの技術は、高品質・良食味米の安定生産にとって必須の技術です。

□土改材肥料散布＋秋耕起のすすめ□

稲刈り終了後、土壌改良資材を散布し耕起を行えば翌年の土づくり肥料を省略できるほか、稲わらの腐熟が進み、わらの浮きや残った多年生雑草が、新たに地下に繁殖体を作るのを防ぐため、翌年の雑草・病害虫の抑制に効果があります。



白神ねぎ

- 長ねぎ栽培について
稲刈り後の病害虫防除を行いましょう!!
- べと・さび病
今年べと・さび病が多発した（梅雨時期）圃場の周辺では再発する可能性があります。気温が徐々に涼しくなると、病害が発生しやすい条件となりますのでご注意ください。
- 黒斑・葉枯病（黄色斑紋病斑（マダラ模様））
葉先枯れや病害痕、虫の食害痕等に黒斑・葉枯病が発生しています。気温の低下と共に、葉枯病は黄色斑紋病斑（マダラ模様）になるので防除が必要です。

また、収穫遅れが発生を助長します。
○ネギアザミウマ
8月は降雨が多かったことで発生は比較的少ない状況ですが今後もまだ注意が必要です。発生が多い場合は薬剤散布間隔を7～10日に詰めて、2～3回防除します。
○シロイチモジヨトウ
今年は発生が多く見られています。幼虫は葉の表皮を食害し、短時間で葉身に食入し、表皮を残して食害するため葉身が白く透けて見えます。見つけしだい捕殺するとともに、老齢幼虫になると薬剤の防除効果が劣るので、若齢幼虫のうちに防除します。

白神山うど

- 山うど栽培について
茎葉の刈り取り（11月中旬～）
・茎葉の刈り取りは低温に遭遇し、茎葉が十分黄化して茎が空洞化した頃に茎葉の刈り取り作業を行って下さい。

枯れ上がりが遅いほど休眠覚醒までに時間を要するため注意が必要です。
株の掘り取り（11月下旬～12月中旬）
・掘り取り時に土を落とし、霜害に遭わないようその日の内に搬出する。搬出後は、ジベレリンの効果を上げるため、根株の土を洗い流した後、株が白くなる程度乾かす。